

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320033

研究課題名（和文）19 世紀ローマにおける外国人芸術家の活動と交流に関する包括的研究

研究課題名（英文）Research regarding the activity and exchanges among the foreign artists of the 19th century in Rome

研究代表者

佐藤 直樹 （ SATO NAOKI ）

東京芸術大学・美術学部芸術学科・准教授

研究者番号：60260006

研究成果の概要（和文）：ローマで活動した外国人芸術家たちの風景画を中心としたデータベースは、総データ件数が 2996 点にも達し、今後の美術史研究に有用なツールとなった。3 年間にわたる本研究課題の研究成果は、論文集『ローマ—外国人芸術家たちの都』（竹林舎）として 2013 年秋に刊行予定である。本書以降、「近代都市と芸術」シリーズとして 7 巻の刊行が続くこととなり、19 世紀の都市と芸術に関して新しい視点を美術史学に提供することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This database has been created in regard to the activities of the foreign artists of the 19th century in Rome and it has now 2996 data, which will be useful for researching in the field of art history. The result of this research project will be published as a book titled "Rome, capital of foreign artists in the 19th century" (Chikurin-sha, Tokyo) in the autumn of 2013. This publication will be followed by seven other volumes, presented in the series "Modern cities and art". I am very confident that they will offer to the art historians new glimpses on art in the European cities of the 19th century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2011 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2012 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・美術史

キーワード：美術史、ローマ、19 世紀、芸術

1. 研究開始当初の背景

19 世紀ローマの美術研究は決して少なくない。しかし、当時のローマのアート・シーンの中心であった外国人芸術家の活動は、国別のコミュニティの枠内での交流と制作に関する研究が中心であるため、各国間の交流や影響関係を重視した研究は十分に行われてきたとは言えない。その原因としては、交

流に関する史料の発掘が遅れていることや、美術史研究が言語別による「縦割り」の狭い範囲内で研究が進められてきたことが挙げられる。

2. 研究の目的

従来の図式的、国別の研究の在り方をふまえて、19 世紀ローマで繰り広げられた「古典

主義」と「風景画の発見」という現象に注目し、各国の芸術家の交流を跡づける史料の調査および活動場所の同定、また、ローマで制作された作品を比較考察することで、外国人芸術家同士の交流とその軌跡を美術史的に評価、さらにはローマの芸術環境そのものを総合的に研究しようとする試みである。この観点によって、これまで国別の活動を個別の歴史として記述することの多かった19世紀の芸術を「ローマという場」で考え直し、国際的な交流がもたらした作品様式やモチーフの融合などの発見という具体的成果を目指す。そして、こうした大きな視点から19世紀の芸術家の活動を包括的に再評価する。これにより、20世紀以降により活発かつ複雑となった国際化がもたらした芸術の相互影響の原型をも見据えることが可能となるだろう。

3. 研究の方法

(1) **基本方針**：本研究課題は、大きく次の3つの分類に基づき研究を分担し進めていった。①19世紀ローマで活躍した外国人芸術家の調査 ②ローマで制作あるいはローマ（古代モチーフ、風景、肖像画など）と関連する作品 ③ローマで活躍する他国の芸術家との交流と作品の影響関係（後世への影響も含む）。以上の研究分類を元に、英独仏伊とデンマークの計6名の日本人美術史研究者が担当した。

(2) **データベース**：各担当者は、担当する国の作家について調査研究と作品のデータベース化を進めた。データベースは、画像と作品データの入力に最も手間がかかるが、アルバイトを雇うことで効率化を図った。担当者が個別に入力した6つのデータベースは、それぞれがネットを介して閲覧可能な状態にし、画家名、モチーフ、風景画の地名などで横断検索することが可能となった。これにより、これまで単独では到達しえなかった別の国の芸術家が同じスケッチ・ポイントで風景を描いたことが明らかになるなど、文献史料の跡づけがなくとも、なんらかの交流がもたれていたことの見通しが得られた。そこから、両者の作品にまつわる研究や史料を調査することで、これまで明らかにされなかった外国人芸術家同士の交流が証明されるのである。また、データベースをネットで閲覧するために、研究代表者の機関に「ファイルメーカー・サーバー」を導入し、いつでもパスワードでアクセスできるようにコンピュータを整備した。

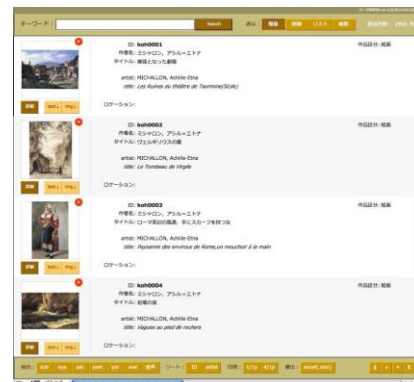
(3) **調査研究旅行**：毎年、調査研究旅行を行い、ローマとその周辺のスケッチ・ポイントを実際に訪れ、ローマにある各国の美術史研究所で文献資料と情報の収集を行った。二年目には、分担者全員でローマとその周辺の

スケッチ・ポイントをチャーター・バスで巡り、交通の便の悪いカステリ・ローマーニ地区を丹念に調べることができた。カステリ・ローマーニは、フランス人とドイツ人が再発見した風景画のポイントであり、担当者が全員でこの地域を実見し、風景画が誕生した場を共有できたことは、研究を遂行する上で極めて大きな役割を果たしてくれた。この調査旅行は、我々の研究の方向が一点に集約してくれる転機であり、この旅行がなければ、今回の大きな成果は達成できなかつただろうと考えている。

(4) **研究報告会**：こうした調査旅行によって得られた成果はデータベースに入力されるだけではなく、年一回開催された研究会で成果が報告され、情報の交換がなされた。ローマの外国人芸術家を個別に研究するだけでは、既存の研究となんら変わりのない成果が得られるだけであつたらう。しかし、この研究会で、6名の成果を報告し合うことで、単独では発見できなかった未発見の交流の痕跡が浮かび上がってきたのである。まさに、この研究会が19世紀ローマの国際的な芸術環境の再現なのであつた。

4. 研究成果

3年間にわたって「ファイルメーカー」を用いて制作されたデータベースは、一元化を終えた。各分担者は、今後も19世紀ローマの研究を進めるにあたり、本データを共有、閲覧し、かつデータの更新をすることができる。このデータベースは、今後も東京芸大美術学部西洋美術史研究室のサーバーに残されるので、研究分担者の研究を支援してくれる有益な研究ツールが誕生したと言えるだろう。



しかし、本データベースは、市販ソフト「ファイルメーカー」を使用しているため、このソフトがインストールされていないコンピュータからはアクセスできないという欠点がある。当初より、研究支援ツールとしての公開を目指していたことから、ネット上での閲覧が可能なフォーマットも別に制作した。これにより、本データベースに興味を持つ研

究者が閲覧可能となる。以下に URL を挙げておく：

<http://romakaken.fa.geidai.ac.jp/~naokisato/romakakenDB/home.php>

ログインID : guest パスワード : roma

この閲覧版は、画像をサムネイルで見ることができないという欠点があるものの、検索は可能であり、ある程度の有用なツールとなると思われる。東京芸術大学美術学部芸術学科のホームページから閲覧可能なリンクを貼る予定である。

本研究課題の成果は、2013 年秋に竹林舎（東京）から研究論文集『ローマ：外国人芸術家たちの都』として出版される。科研メンバーの 6 本の論文に加え、音楽、演劇、文学の分野からの論文も合わせて、ローマという都市と芸術にアプローチするものだ。原稿は現時点で 6 割が集まり、7 月初めには全てが揃う予定である。竹林舎は、本論文集を起点に、19 世紀ヨーロッパの都市と芸術を扱う論文集シリーズ「近代都市と芸術」（全 8 巻）として続けて 7 巻が刊行することを決定した。研究代表者である筆者は、他の 2 名とともに責任編集者として全巻を監修する予定であり、各巻の編集者もすでに決定している。竹林舎は、本研究課題がこれまでの国別の美術史研究の限界を打破する企画であることに興味を示し、研究二年目の段階で、このような規模の出版企画へと展開することとなった。ローマだけでなく、19 世紀の主要都市のアート・シーンを浮き彫りにすることで、19 世紀西洋美術史の全体像が新しいかたちで我々に迫ってくることだろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

- ①佐藤直樹「19 世紀ローマにおけるドイツ人画家の活動と交流—ヨハン・クリスティアン・ラインハルトを中心に」（仮題）『19 世紀学研究』19 世紀学学会、第八号、2014 年（頁未定）（掲載は確定）、査読無し
- ②山口恵里子「D.G.ロセッティの装飾的中世《エルフェン＝ミアの乙女たち》とモクソン版『テニソン詩集』の挿絵から」『文化交流研究』筑波大学、第八号、2013 年、pp. 65-117、査読無し。
- ③小針由起隆「ユベール・ロベールとナポリ近郊ポッツオーリのセラピス神殿」『静岡県立美術館紀要』28 号、2013 年、pp. 9-19、査読無し
- ④山口恵里子「ヴィクトリア朝の日本趣味と明示芸術のラファエル前派受容—中世主義と装飾芸術を結び目として」『日本とヴィク

トリア朝英国—交流のかたち』松村昌家篇、大阪教育図書、2012 年、pp. 44-107、査読無し

- ⑤小針由起隆「ユベール・ロベールとイタリア、ピトレスクなものを求めて」『ユベール・ロベール、時間の庭』（国立西洋美術館/静岡県立美術館）展覧会カタログ、2012 年、pp. 38-43、査読無し
- ⑥小針由起隆「アルカディア考—牧羊人生活をめぐる文学と絵画」『桃源万歳』展カタログ、岡崎市美術博物館、2011 年、pp. 226-231、査読無し
- ⑦小針由起隆「ローマとその近郊、そしてナポリへ」『芸術の花開く都市』展カタログ、静岡県立美術館、2011 年、pp. 40-53。査読無し
- ⑧佐藤直樹「総論：〈宗教・肖像・自然〉からみたデューラー受容」『言語文化』28 巻、明治学院大学、2011 年、pp. 4-24、査読無し
- ⑨山口恵里子「ヴィクトリア朝の Medievalism と Japanisme—ロセッティ兄弟の浮世絵コレクション」『論叢 現代語・現代文化』査読有、6 巻、2011 年、査読有り。
- ⑩渡辺晋輔「ローマにおけるファルネーゼ家のパトロネージ」『ナポリ・宮廷と美 カポディモンテ美術館展』カタログ、国立西洋美術館、2010 年、pp. 24-29、査読無し
- ⑪大屋美那「フランク・ブラングイン、美術館デザインと壁面装飾」『ジャポニスム研究』30 号、2010 年、pp. 83-87、査読無し

〔学会発表〕（計 11 件）

- ①山口恵里子”Pre-Raphaelite Medievalism in Japan: Decorativeness in Art and Literature in Meiji Romanticism”（招待講演）、Internationalised Pre-Raphaelitism, Paul Mellon Centre for Studies in British Art, London, (イギリス) 2013 年 1 月 10 日
- ②佐藤直樹「植物を描く／植物で描く—ドイツ語圏の美術でたどる植物表現の可能性」シンポジウム企画・ディスカッション司会、明治学院大学、ドイツ語圏美術研究連絡網共催、2012 年 12 月 2 日
- ③佐藤直樹「19 世紀ローマにおけるパノラマ風景画の誕生」19 世紀学学会（招待講演）、2012 年 3 月 10 日、新潟大学
- ④大屋美那「ローマ滞在期のジャン＝バティスト・カルポーについて」美術史学会東支部例会（司会：佐藤直樹）、2012 年 1 月 28 日、東京芸術大学
- ⑤山口恵里子「ローマのカンパーニャとイギリス風景画—ターナーからエトラスカンズへ」美術史学会東支部例会（司会：佐藤直樹）、2012 年 1 月 28 日、東京芸術大学
- ⑥萬屋健司「19 世紀ローマにおけるデンマー

ク人芸術家の活動について—C.W.エガスペアの風景画を中心に」西洋美術史博士論文作成研究会、2012年1月24日、大阪大学

⑦渡辺晋輔「アンニバレ・カラッチによる版画の利用—ファルネーゼ宮カメリーノ天井装飾をめぐる」美術史学会東支部例会（司会：有川治男）2011年11月26日、学習院大学

⑧佐藤直樹「総論：〈宗教・肖像・自然〉からみたデューラー受容」ドイツ語圏美術研究連絡網、明治学院大学、2011年11月13日

⑨山口恵里子"Pre-Raphaelite Medievalism and Materialism: D. G. Rossetti, Edward Burne-Jones, and William Morris", The Nineteenth-Century Art and Visual Culture Colloquium, イェール大学（アメリカ）2011年10月4日

⑩山口恵里子"D. G. Rossetti's Medievalism: His Preference for Decorativeness", Art in Context at Yale Center for British Art, イェール大学（アメリカ）、2011年9月13日

⑪大屋美那「フランク・ブラングイン、美術館デザインと壁面装飾」ジャポニスム学会、国立西洋美術館講堂、2010年4月14日

〔図書〕（計4件）

①佐藤直樹編集『ローマ：外国人芸術家たちの都』「西洋近代都市と芸術シリーズ」第一巻、竹林舎、2013年（予定）総頁数未定、（出版は確定）

②大屋美那『手の痕跡 ロダンとブールデルの彫刻と素描』国立西洋美術館、総204頁
2012年

③松村昌家篇、山口恵里子他執筆『日本とヴィクトリア朝英国—交流のかたち』大阪教育図書、2012年、総260頁

④小針由起隆『ローマが風景になったとき—西欧近代風景画の誕生』2010年、総243頁

〔その他〕

データベース：

<http://romakaken.fa.geidai.ac.jp/~naokisato/romakakenDB/home.php>

ログインID：guest パスワード：roma

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 直樹 (SATO NAOKI)

東京芸術大学・美術学部芸術学科・准教授

研究者番号：60260006

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

山口 恵里子 (YAMAGUCHI ERIKO)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：20292493

大屋 美那 (OYA MINA)

国立西洋美術館・学芸課・主任研究員

研究者番号：40342943

渡辺 晋輔 (WATANABE SHINSUKE)

国立西洋美術館・学芸課・主任研究員

研究者番号：50332143

(4) 研究協力者

小針 由起隆 (KOHARI YUKITAKA)

静岡県立美術館・学芸課・課長

萬屋 健司 (YOROZUYA KENJI)

山口県立美術館・学芸課・学芸員